

1. 主題設定の理由

昨年度の成果と課題及び、新学習指導要領を検討し、以下の研究主題を設定した。

成果 ・各分科会の特色を生かした提案授業ができていた。主題にせまることができていた。

課題 ・主題の理解に差があり、部内で共有しきれなかった。

・「見ている世界が変わる」が捉えきれなかった。

・教材研究だけでなく、授業や単元の工夫などでも分科会提案をしてもよい。

・教材開発を新規で開発するには時間がかかるため、身の回りにあるもので活用できるものを見つけていきたい。

見ている世界が変わる！見方・考え方を豊かにする理科学習
～もしかして？ これならこうなる だとしたら・・・～

「見ている世界が変わる！」

児童が日常的に目にしているもの、触れているものでも、そのものの価値に気が付いていないことが多い。「見ている世界が変わる！」とは、問題解決の過程で理科の見方・考え方を働かせながら自然の事物・現象に関わり、学習後にそのものの捉え方が変わることを目指したものである。

「見方・考え方を豊かにする理科学習」

「見方・考え方を豊かにする理科学習」とは、教師が意図的に、子供がより多くの理科の見方・考え方を働かせることができるようにしたり、多様な考えをもつことができるようにしたりすることにより資質・能力を育成する授業の実現を目指すことを指す。学習指導要領には、「見方・考え方」を働かせながら、知識・技能を習得したり思考・判断・表現したりしていくものであると同時に、学習を通して「見方・考え方」が「豊かで確かなもの」になっていくとある。

「もしかして？」(事象提示→問いを見いだす→予想・仮説を立てる)

生活の中から問いを見だし、予想や仮説を立てる段階。事象を提示されることで子供なりに「もしかして？」という考えをもつことになる。そのことをもとに問いという形で活動の目標を自分なりに立て、興味・関心を高めた状態で予想や仮説を立てる。

「これならこうなる」(実験計画の立案→結果の見通し→実験→結果の整理→考察)

自分が立てた予想や仮説を実験で確かめる段階。条件を制御し、科学的に検証する。安全を前提に、条件が制御された実験に置き換え、再現性、実証性、客観性のある結論を導出する。

「だとしたら・・・」

実験で得られた結論を生活の中の事象に転用したり、新たな問いを見いだしたりする段階。「だとしたら・・・あれに利用できるかもしれない(転用)」「だとしたら・・・これはどうなっているのかな?(新たな問い)」というように問題解決の過程から得られた学びを広げたり、深めたりすることができるような姿を期待した。

2. 研究の進め方

時期	誰が	活動	備考
研究授業二週間前 一週間前まで	世話人 分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を分科会メンバーに送付する。 ・分科会メンバーに連絡し、指導案検討を行う。(会場は分科会ごとに決める。) ・Wordのコメント機能を使って意見のやりとりをし、指導案を改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会を開く時には、世話人は事前に庶務部に連絡し、出張依頼を作成してもらう。 ・分科会提案(研究仮説、手立て等)についても話し合う。
八日前	分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・意見をまとめ、学習指導案を完成させる。 	
一週間前	世話人 分科会 参観者	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会提案と学習指導案を講師に郵送する。 ・分科会提案と学習指導案を理科部長に送る。 ・分科会提案と学習指導案を理科部の掲示板に挙げる ・必要に応じて学習指導案を修正する。 ・事前授業を行い、分科会で検証する。 ・公開された指導案を確認し、自分なりに考えたり、指導事例を調べたりして予習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案は、この時点までのものでよい。 ・本時案は、研究授業当日まで変更してもよいが、可能な限り周知できるよう努める。
三日前	世話人	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した分科会提案と学習指導案を理科部の掲示板に挙げる。 	
前日までに	授業者 分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷、押印 	
当日	授業者 分科会 参観者	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を行う。 ・研究協議会を進行させる。(授業記録や協議会記録、研究協議会の司会、分科会提案は分科会で役割分担をしておく。) ・提案が有効かどうかを検証し、協議会で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議は付箋を用いて、分科会が提示する視点について話し合う。
事後	授業者 分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業実施単元の児童の変容を見取る。 ・事後研修会を開き、単元全体を振り返り提案内容について検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童への事後アンケート、意識調査、ノートの見取り等をして成果と課題をまとめる。
次回 区教育研究会	世話人	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の変容など、成果と課題を報告する。 	

今年度は研究授業を1回行う。その他、事前打ち合わせや検討会のもたせた方について、オンライン「Teams」を活用する方法を検討している。